

# SX人材育成3年目の取り組みと 今後の方向性

令和8年1月30日

学校法人一川学園 清和学園高等学校

# 目次

- 清和学園マイスター・ハイスクール事業ビジョンについて
- 清和学園と越生町について
- 事業ビジョンで目指すSX人材育成モデル
- 実施体制
- 今年度の取り組み
- これまでの取り組み成果と課題
- 清和学園マイスター・ハイスクールカリキュラム
- マイスター・ハイスクール事業を通じた清和学園の変容
- CEOの果たしてきた役割について
- 事業終了にあたっての振り返り
- 今後の自走について

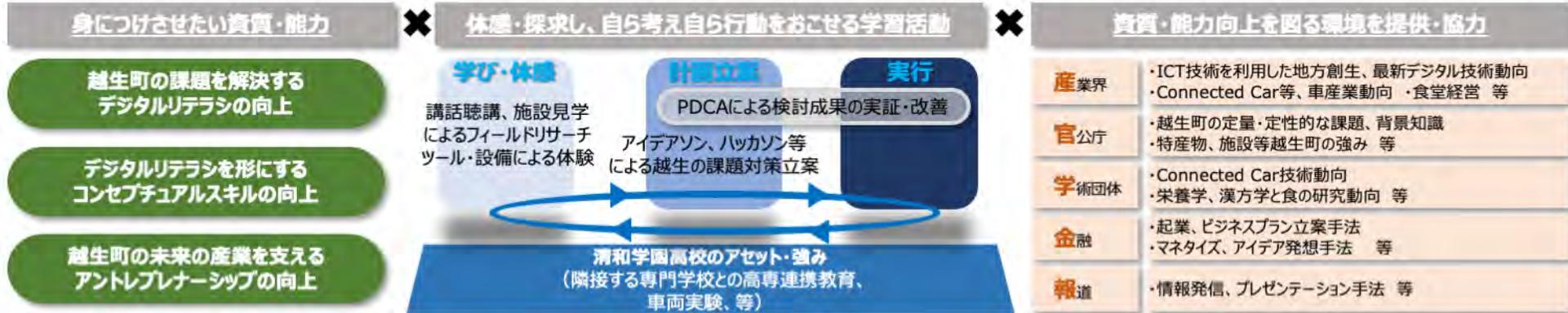
# 清和学園MHS事業ビジョン

## レジリエントな町と産業を支えるニューノーマル時代のSX(Sustainability Transformation)人材養成モデルの構築

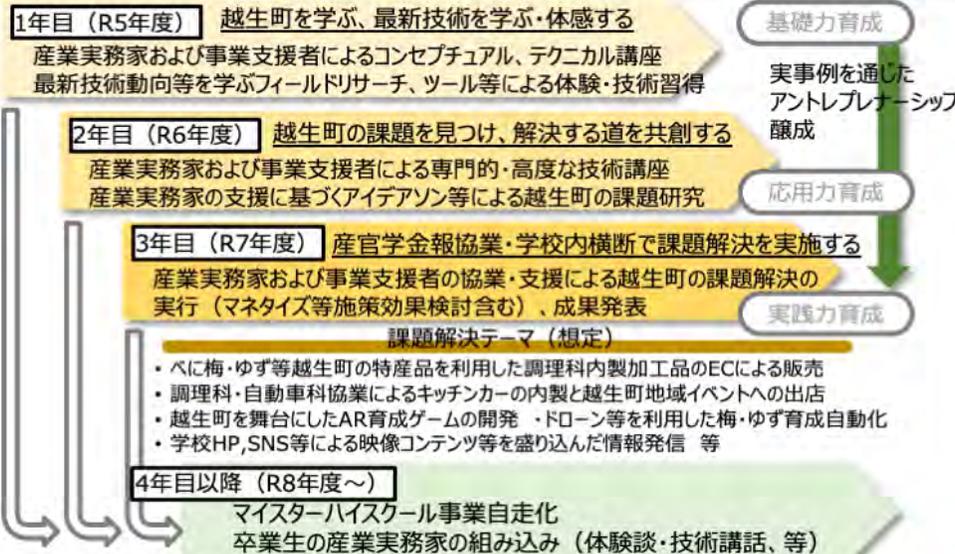
### 事業ビジョン

### 越生の町と越生の産業のサスティナブルとレジリエントを実現するニューノーマル時代のSX人材養成モデルの構築

清和学園高等学校は、通信制高校でありながら全国唯一の工業・家庭の国家資格が取得可能な新たなスタイルの高等学校である。越生町に受け継がれてきた自然豊かな環境や地域産業を活かし、生徒一人ひとりが、越生町民や地域関係者と協働して、地域・社会課題の発見やICT・デジタル技術等最新技術による解決に自ら取り組むことのできる力を育み、アフターコロナ・ウィズコロナ時代における越生町の強靱かつ持続的な成長を図っていきける人材を育成する。



### 清和学園高等学校マイスターハイスクール 年度毎のカリキュラム案



### 清和学園高等学校マイスターハイスクール実施体制



レジリエントな町と産業を支えるニューノーマル時代のSX（Sustainability Transformation）人材養成モデルの構築

令和6年度目標：事業カリキュラムの実証、企業連携の強化、評価基準の策定

Connected Car最新技術

- 授業対象学科
- 自動車科
  - 自動運転、の仕組み、講義、学習
  - 実証フィールドによる実験参画【産業実務家教員・事業支援者】
    - ・ 日産プリンス埼玉販売(株)
    - ・ 埼玉工業大学
    - ・ 専門学校越生自動車大学校
    - ・ (株)FOMM

車産業動向

- 授業対象学科
- 自動車科
  - 最新FA技術のフィールド見学
  - 実地体験
  - 電気自動車技術動向
  - 次世代自動車整備技術動向
  - 【産業実務家教員・事業支援者】
    - ・ 日産プリンス埼玉販売(株)
    - ・ 埼玉工業大学
    - ・ (株)FOMM
    - ・ 専門学校越生自動車大学校

栄養学・漢方学と食の研究

- 授業対象学科
- 調理科
  - 越生名産のべに梅・ゆずの栄養学・漢方学知見から見た講義
  - 各学術的知見に基づく新たな名産加工品の開発、成分分析
  - 【産業実務家教員・事業支援者】
    - ・ 女子栄養大学/香川調理製菓専門学校
    - ・ 日本薬科大学

食堂経営

- 授業対象学科
- 調理科
  - 生産・販売拠点道の駅を活用した食堂経営の実地体験
  - 名産加工品の企画、販売、パッケージングの実地体験
  - 【産業実務家教員・事業支援者】
    - ・ (株)越生特産物加工研究所
    - ・ オクムサ・マルシェ
    - ・ 越生町商工会・観光協会

ICTを利用した地域創生手法

- 授業対象学科
- 自動車科 ■ 調理科
  - 実証フィールドによる実験参画（ドローン・農業ICT・観光AR、等）
  - 地域特産とテクノロジーの掛け合わせをするアイデアの創出（アイデアソン、等）
  - 【産業実務家教員・事業支援者】
    - ・ NTT東日本
    - ・ (株)タカインフォテクノ
    - ・ (株)アルトテラス

最新デジタル技術

- 授業対象学科
- 自動車科 ■ 調理科
  - XR技術、ゲーミングプログラムを活用した地域の魅力発信につながる実験参画
  - NW・クラウド等の基本技術からAI活用などの講義、学習、体験
  - 動画など各種デジタルコンテンツ作成についての講義、実証
  - 各種ツールを利用したサイバーセキュリティの知識学習、体験
  - 【産業実務家教員・事業支援者】
    - ・ NTT東日本
    - ・ (株)タカインフォテクノ
    - ・ (株)アルトテラス

コンセプチュアルスキル等

- 授業対象学科
- 自動車科 ■ 調理科
  - 越生町の資源を活用したビジネスプラン策定講義、学習
  - 策定プランについてのプレゼンテーション
  - 資金調達等のファイナンス知識の講義、学習
  - ICTを駆使したホームページ、SNS等の知識学習、体験
  - 【産業実務家教員・事業支援者】
    - ・ (株)タカインフォテクノ
    - ・ 飯能信用金庫
    - ・ J-COM・埼玉新聞社

# 清和学園のマイスター・ハイスクール事業

越生町について学ぶ。



最新/専門の技術を学ぶ・体験する。



越生町の課題を見つける。



学びを活かして解決方法を考える。

考えた解決方法を皆で実践する。

越生町の課題解決に貢献する。

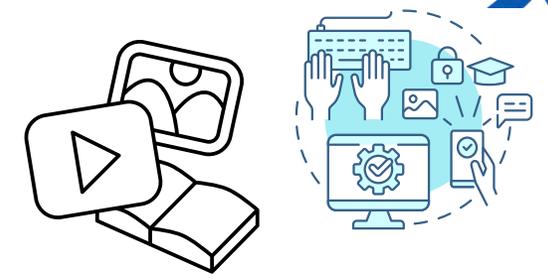


取り組みを通して様々な  
スキル・能力を身につける。

# 育成する能力・スキル

デジタルリテラシー

デジタル技術を理解して使いこなす。



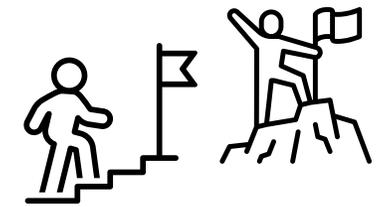
コンセプチュアルスキル

いろいろな考える方法や技術を身につける。



アントレプレナーシップ

新しい事にチャレンジして実現する。



サステナビリティ理解

サステナビリティを理解して、行動に取り入れる。



越生町 理解

どんな町で何が課題なのか理解して、他人に説明出来る。



# 清和学園と越生町について



## 清和学園高等学校

越生工業技術専門学校（昭和37年開校）を前身に持ち、「**行うことによって学ぶ**」を建学の精神としています。

- 通信制高校で全国唯一の自動車科・調理科を設置（通学登校により資格取得可能）
- 週4日以上登校により全日制高校に近い高等学校
- エンカレッジスクール：基礎からの学び直しが可能な普通科アドバンス



	学年合計	自動車科	調理科	普通科	
				アドバンス	ベーシック
1年	118	39	34	34	11
2年	102	30	30	25	17
3年	113	25	26	39	23
合計	333	94	90	98	51

# 清和学園高等学校のある越生町について



**越生町（おごせまち）**は、人口約1万1千人で、**埼玉県**の**ほぼ中央**に位置し、首都50キロメートル圏にあります。外秩父山地と関東平野の接点にあり、町のほぼ中央を越辺川（おっぺがわ）が貫流、**四季折々の美しい景観が魅力**です。

ハイキングに適した地形で、平成28年には**全国で初めて「ハイキングのまち」**を宣言。

関東三大梅林の一つである**越生梅林**など、自然豊かな観光スポットが多く、四季折々の風景を楽しむことができます。

「**七福神めぐり**」や「**梅まつり**」などのお祭りも盛んです。



越生町は、**梅と柚子**の生産で知られており、これらを活用した梅ジュース「元気百梅」やゆずジュース「ゆず之介」など、様々な加工品が町の特産品として人気です。

<越生梅林>



越生町のマスコット  
「うめりん」

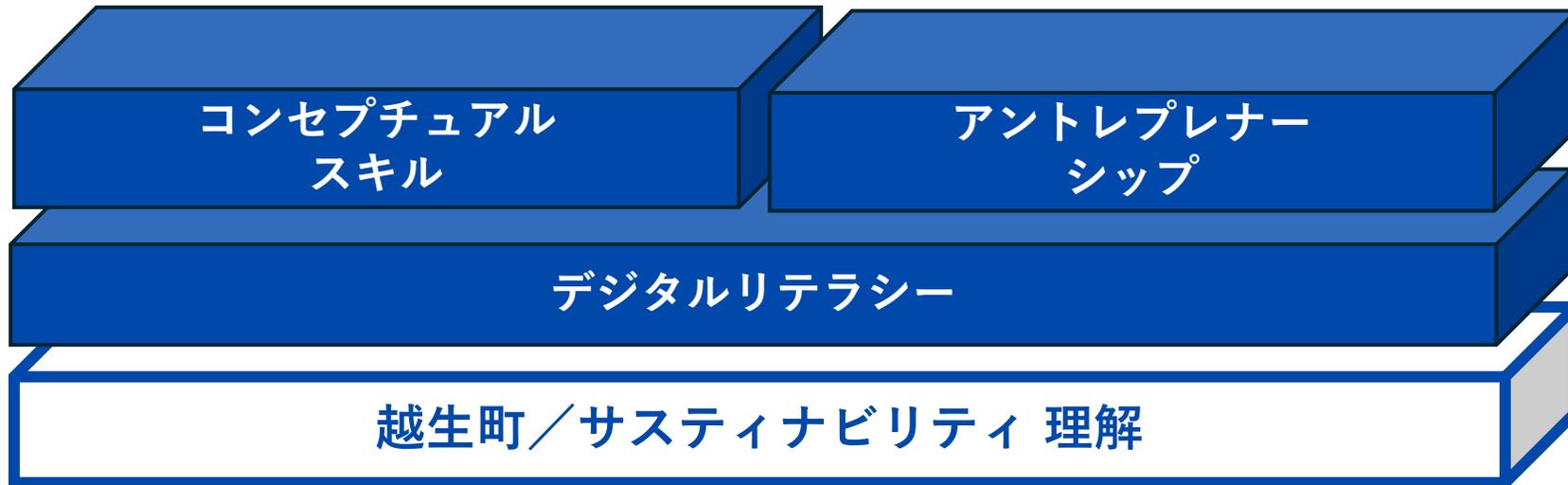
# 事業ビジョンの目指す SX人材育成モデル

## レジリエントな町と産業を支えるニューノーマル時代のS X人材

越生町とサステナビリティを理解し、デジタルリテラシー、コンセプチュアルスキル、アントレプレナーシップを学び、これらを活用した価値創造活動を行うことで、越生町と産業の持続的成長を実現・推進する人材

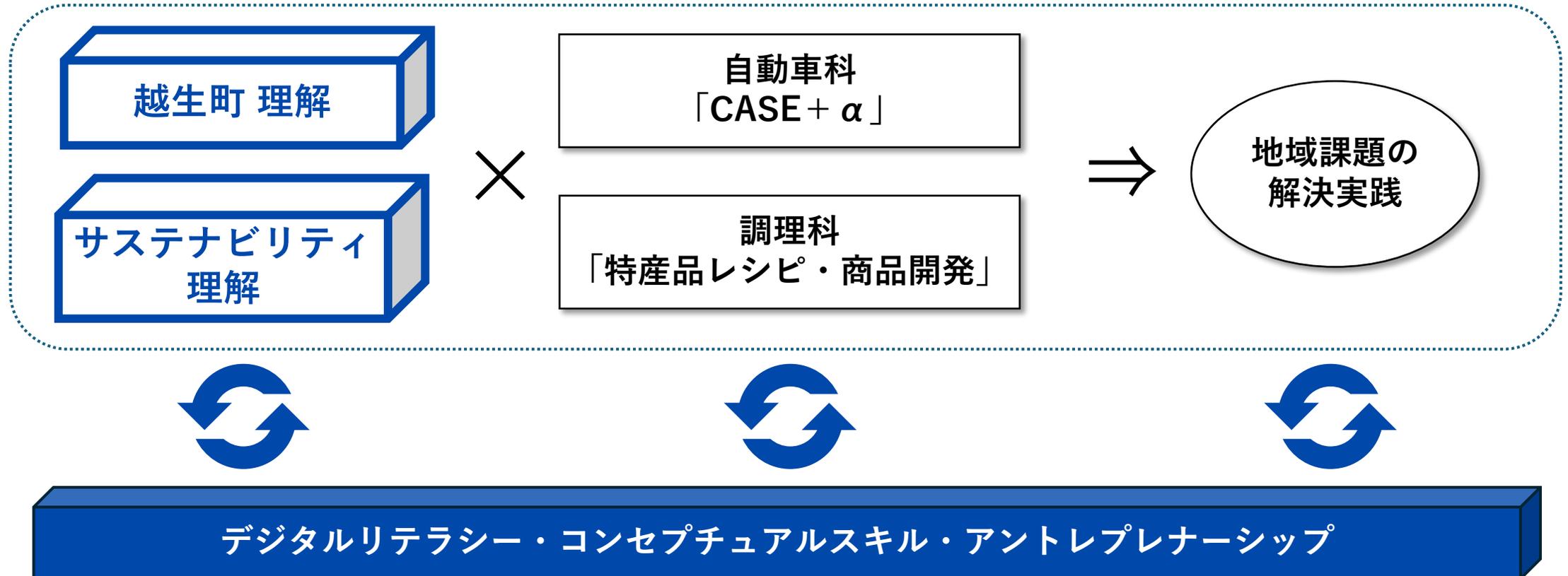
# SX人材に必要な能力・スキルの育成

- 越生町とサステナビリティへの理解を基盤に、デジタルリテラシーを土台として、コンセプチュアルスキルやアントレプレナーシップを育み、実践に活かせる人材を育成する。



# SX人材育成モデル

- 「越生町」や「サステナビリティ」の理解を深め、自動車科は「CASE +  $\alpha$ 」、調理科は「特産品レシピ・商品開発」を通じて地域課題の解決に取り組む。
- これらの活動を通じて各種スキルを育成する。



# 实施体制

# 取り組み体制

<管理機関>



- ・授業実施
- ・プロジェクト協力

<管理機関>



- ・CEO派遣
- ・授業実施
- ・施設提供



産業実務家教員による授業  
施設、設備の提供



産業実務家教員による授業  
施設、設備の提供

- ・ タカインフォテクノ
- ・ アルトテラス
- ・ ゆずの里ケーブルテレビ
- ・ 越生特産物加工研究所
- ・ オクムサ・マルシェ
- ・ コント・ド・フェ
- ・ 日産プリンス埼玉販売
- ・ 埼玉トヨタ
- ・ 埼玉スバル
- ・ 飯能信用金庫

<産業界>

- ・ 埼玉工業大学
- ・ 越生自動車大学校
- ・ 山手調理製菓専門学校
- ・ 女子栄養大学 / 香川調理製菓専門学校
- ・ 日本薬科大学

<学術機関>

# 令和7年度の取り組み

# 令和7年度における取り組み

## • 昨年度から内容を改善したもの、今年度新たに取組んだもの

学科	授業/PJ	令和7年度の実施・改善内容
自動車科	技能コンクール	埼玉トヨタ様との外部連携プロジェクトに展開。 <u>お客様サービス向上など企業内コンクールの実施意義</u> を学び、取り組みへの意識を高めた。 競技内容を生徒主体で決定。PDCAに動画による振り返りを追加。
	おごせ環境フェア	CASEの学びを越生町のゼロカーボン活動と結びつけ、 <u>環境フェアでの成果発表と技能実践による貢献活動</u> を実施。
調理科	「特産品開発」設定	各種プロジェクト推進のため全学年に <u>学校設定科目「特産品開発」</u> を設定
	卒業作品展	松柏軒レストランからの授業について、立食ビュッフェ運営に加えて、 <u>ビュッフェ提供に適したレシピの考え方・器の選び方</u> まで内容を充実。
	チョコレートプロジェクト	大量製造のため、 <u>製造業者によるレシピ指導授業</u> を導入。 プロジェクト資金を飯能信用金庫から借り入れ。（販売完了後に授業も実施）
	梅だれ開発 (文化祭・梅サミット)	特産品ランチ販売で好評だった「梅だれ」を商品化したいと生徒が試作に取り組み、文化祭でも提供、 <u>2月の全国梅サミット</u> で来場者へ提供する予定。
	金融リテラシー授業	飯能信用金庫を講師として自分たちが実施した校内ランチ販売を題材にして <u>飲食店の資金繰り</u> の授業を受け、必要な運転資金を算出するワークを実施。
(参考) 普通科	越生うちわ製作	普通科デザイン授業で伝統工芸品「越生うちわ」製作を実施。生徒は学校・越生町の魅力をデザインし、うちわ職人による製作指導を受けて完成させた。

# 令和7年度における取り組み

- 昨年度から内容を改善したもの、今年度新たに取組んだもの

学科	授業/PJ	令和7年度の実施・改善内容
自動車科	技能コンクール	埼玉トヨタ様との外部連携プロジェクトに展開。 <u>お客様サービス向上など企業内コンクールの実施意義</u> を学び、取り組みへの意識を高めた。 競技内容を生徒主体で決定。PDCAに動画による振り返りを追加。
	おごせ環境フェア	CASEの学びを越生町のゼロカーボン活動と結びつけ、 <u>環境フェアでの成果発表と技能実践による貢献活動</u> を実施。
調理科	「特産品開発」設定	各種プロジェクト推進のため全学年に <u>学校設定科目「特産品開発」</u> を設定
	卒業作品展	松柏軒レストランからの授業について、立食ビュッフェ運営に加えて、 <u>ビュッフェ提供に適したレシピの考え方・器の選び方</u> まで内容を充実。
	チョコレートプロジェクト	大量製造のため、 <u>製造業者によるレシピ指導授業</u> を導入。 プロジェクト資金を飯能信用金庫から借り入れ。（販売完了後に授業も実施）
	梅だれ開発 (文化祭・梅サミット)	特産品ランチ販売で好評だった「梅だれ」を商品化したいと生徒が試作に取り組み、文化祭でも提供、 <u>2月の全国梅サミット</u> で来場者へ提供する予定。
	金融リテラシー授業	飯能信用金庫を講師として自分たちが実施した校内ランチ販売を題材にして <u>飲食店の資金繰り</u> の授業を受け、必要な運転資金を算出するワークを実施。
(参考) 普通科	越生うちわ製作	普通科デザイン授業で伝統工芸品「越生うちわ」製作を実施。生徒は学校・越生町の魅力をデザインし、うちわ職人による製作指導を受けて完成させた。

自動車科 おごせ環境フェア

## 授業名・プロジェクト名

おごせ環境フェア  
 (越生町の課題解決を実践する)

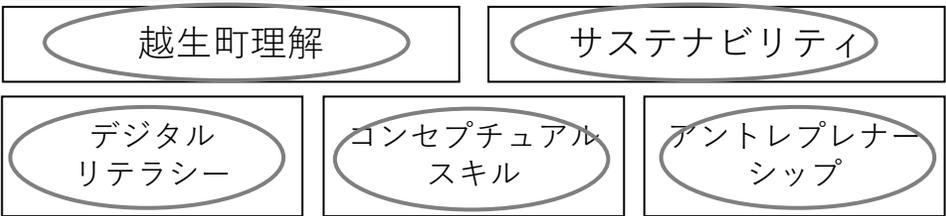
## 対象

自動車科	調理科	普通科
1年	2年	3年

## 実施時期

- 事前授業：10/23、10/29
- おごせ環境フェア：11/3

## 能力・スキル



## 連携企業

- 越生町

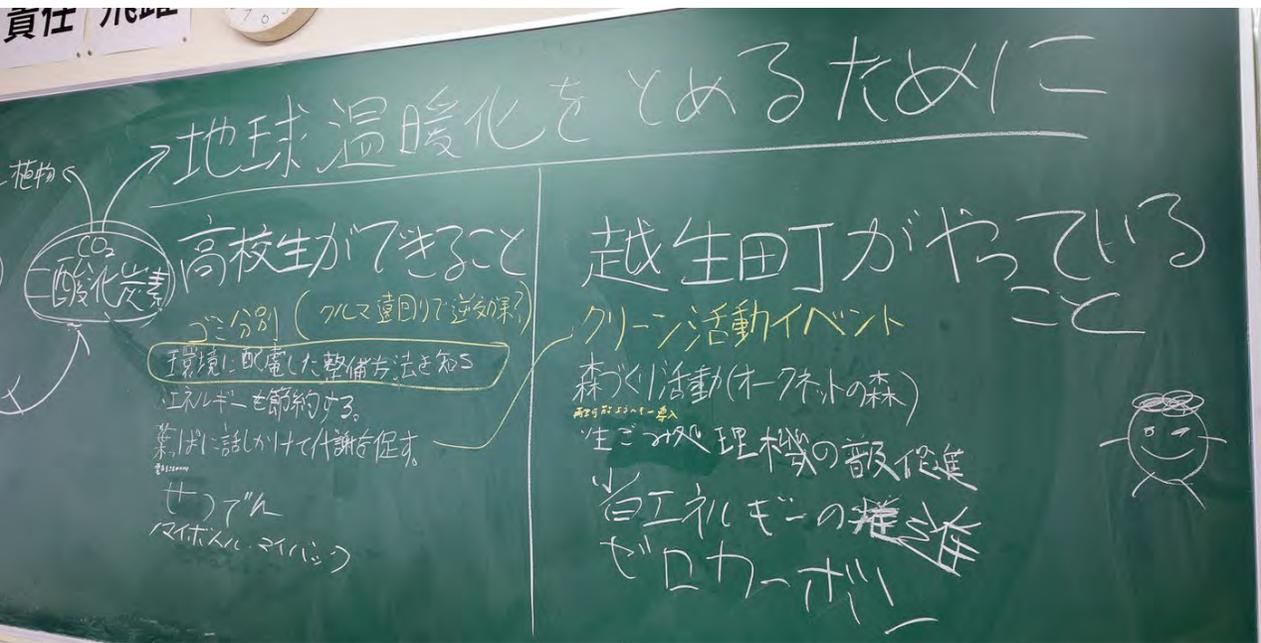
## 授業概要

- 事前授業では、山並み連携ゼロカーボンシティの取組を背景に、身近な自動車整備が環境に与える影響を考える学習を行った。タイヤ空気圧の違いによる走行の重さを体感実験で比較し、結果を記録・整理することで、日常の整備行動と環境との関係を理解する構成とした。
- 実験結果をもとに説明用資料を作成した後、出来上がった資料をどのような順序や言葉で話すと来場者に伝わりやすいかを検討した。専門的な内容をそのまま読むのではなく、要点の強調や話し方を工夫する準備を行った。
- おごせ環境フェア当日は、生徒が資料を用いて来場者へ説明を行い、希望者の車両を対象にタイヤ空気圧の点検・調整を実施した。事前に考えた説明の仕方と整備技能を、地域の場で実践的に活用する授業とした。

## 成果

- CASEを学んだ上で、越生町が推進するゼロカーボン活動に対し、高校生として何が実践できるかを考え、説明と整備という形で行動に移すことができた。資料を用いた説明や空気圧調整を通して、学んだ知識を社会で使う経験を積み、学びを実践につなげる力が育まれた。
- 来場者との対話や運営上の課題への気付きから、より良い伝え方や次の取組を考える視点が生まれた。CASEの学びを地域課題と結び付けて捉えようとする意識が見られた。

# 3年 地域課題解決ゼロカーボンの取組



## CO2を減らす法案の決定 P 4

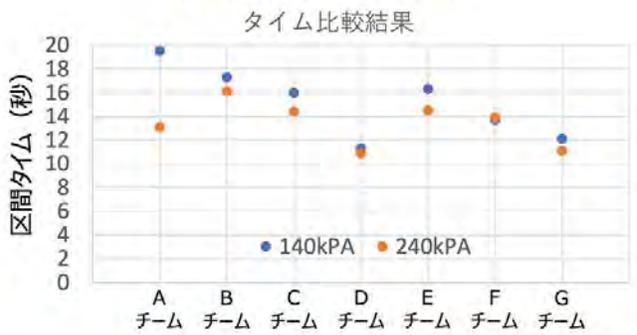
実験の結果が出た後に先生が車両のセッティングを教えてくださいました

手押しタイム計測

車両の動き出し官能評価

速く走れたのはどちらか?

軽く押せたのはどちらか?



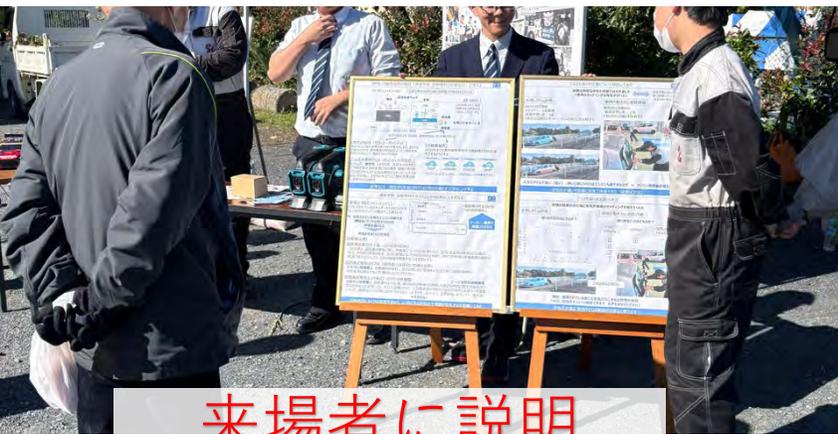
空気圧 240kPa	分らない	空気圧 140kPa
正	正	—

140kPaの車両

タイヤの空気圧と燃費  
の関係を体感



# 3年 おごせ環境フェア(展示・空気圧調整)



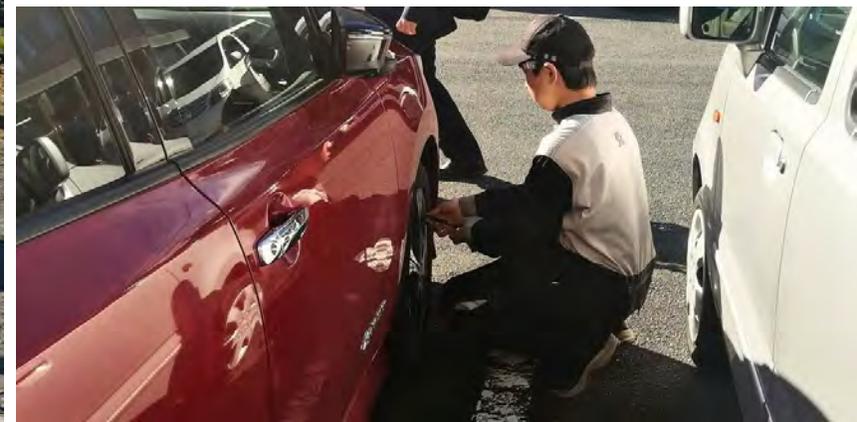
来場者に説明



説明後に希望者の  
タイヤ空気圧を調整



越生町長にも説明



# おごせ環境フェア参加による学び

## 参加生徒の感想

- 空気圧調整を行い、仕組みとゼロカーボンの関係を説明し、伝わった手応えを感じた。
- 緊張しながらも来場者に分かりやすく説明。風対策や椅子不足など運営面の課題を感じた。
- 来場者はゼロカーボンへの関心が高く、特に高齢者の興味に驚いた。もっと多くの人に伝えたいと感じた。
- 来場者を増やす工夫の必要性を感じた。EV普及には価格や充電環境に課題があると考えた。
- まざまな年代の来場者から意見を聞き、有益な学びを得た。次に生かしたいと感じた。
- (同時開催の産業祭で) 梅・ゆずの加工品を見て地域資源の活用を理解。農家の話から地域産業への思いを感じた。

## 成果

- 地域資源の加工品や生産者の話を通し、越生町の産業や文化を具体的に理解した。
- 空気圧調整とCO<sub>2</sub>削減の関係を説明した経験がサステナビリティの理解を深め、EV普及の課題にも着目した。
- イベント実施時の強風対策・備品不足・集客など現場課題を自ら発見し、改善点として整理できた。
- 緊張しながらも価値提供を行い、来場者の反応を学びに変え、次につなげる姿勢が育った。

# 調理科 梅だれ開発

(校内ランチ販売の評価を受けた生徒取り組み)

## 授業名・プロジェクト名

さんちょう食堂  
(特産品ランチ販売)

※さんちょう  
=3調=3年調理科

## 対象

自動車科	調理科	普通科
1年	2年	3年

## 実施時期

- 7月11日

## 能力・スキル

越生町理解	サステナビリティ	
デジタルリテラシー	コンセプトチュアルスキル	アントレプレナーシップ

## 連携企業

- 越生町

## 授業概要

- 越生町の特産品である梅・柚子を活用したパスタレシピを3グループで考案・試作し、食べ比べを経て販売用レシピを決定。今回は価格に上限を設け、生徒は原価内に収めるため食材や分量、調理法を工夫。
- Canvaでポスターやチラシを制作し、他クラスへのPR訪問も自ら他クラス担任にアポイントを取って実施するなど、調理だけでなくマーケティングも意識した取り組みを展開。
- 予約受付はGoogleフォームを活用し、前回の振り返りを踏まえて予約リストをスプレッドシートで共有。複数窓口での円滑な対応が可能となった。
- 当日は各グループ50食、計150食を大量調理し、校内および越生町職員に販売、全て完売させ実践的な学びにつなげた。

## 成果

- 町の特産品を用いたレシピ開発から販売までを通じ、地域資源の価値を理解し、専門性を社会に生かす経験を積んだ。
- 原価の上限を意識した食材選定や分量調整、大量調理を行う中で、価格設定や段取りの難しさと重要性を体験的に学んだ。
- CanvaやGoogleフォームを活用した広報・予約管理、他クラスへのPR訪問を通じ、チームで協力しながら役割を果たす力が育まれた。

# さんちょう食堂（特産品ランチ販売）



各班で地元特産の梅・柚子を使ったパスタレシピを考案、試作して販売レシピを決定



販売価格に収まるように原価を計算しながら原材料や分量を決定

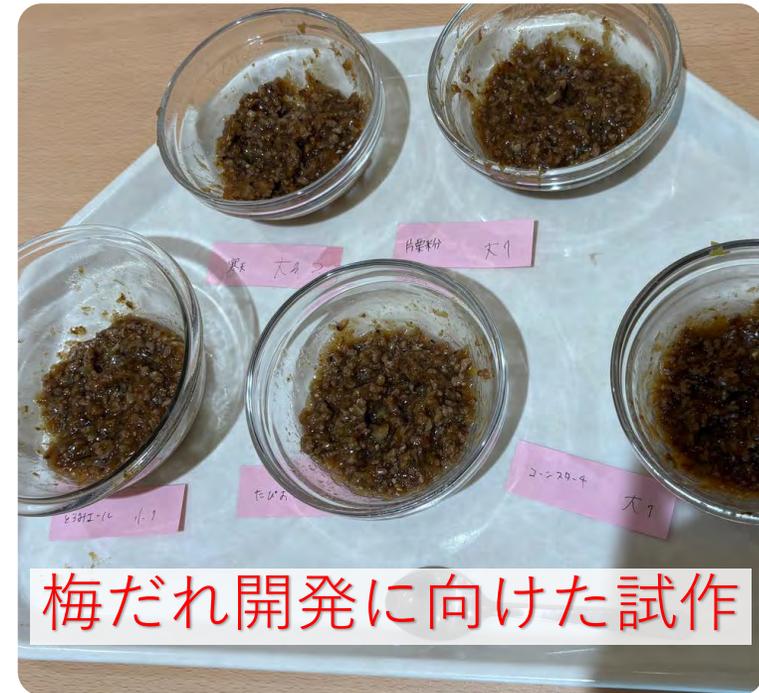
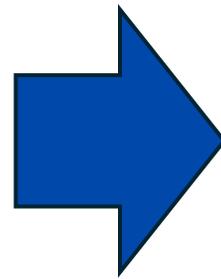


事前に販促ポスターからQRで予約を受け付けて販売数を管理  
当日は予約に基づいて費用を徴収して提供を実施



# 新商品開発：万能梅だれ

さんちょう食堂で提供した「梅だれつけ麺（パスタ）」が利用者に好評で「梅だれは他の料理にも合うのでは」という声を受けて、生徒が「万能梅だれ」として開発に着手



# 文化祭で「梅だれ」メニューを販売

JAいるま野  
総合トップ 正組員（農業生産者）の方 ビジネス・業務向け情報 採用情報 定型約

直売所 本支店・ATM 事業案内 JAバンク (貯金・ローン・手数料) JA共済 JAいるま野について

HOME > いるま野NEWS > 農産物情報 > 清和学園高等学校の生徒が梅を使ったオリジナルメニューを考案！

## いるま野NEWS

< 『いるま野NEWS』トップ

### 清和学園高等学校の生徒が梅を使ったオリジナルメニューを考案！

2025年11月25日

**お知らせの種類**

- お知らせ
- イベント・キャンペーン
- 農産物情報
- 金融共済NE
- エリア情報

**年月別のお知らせ**

- 2025年 (130) ▾
- 2025年11月 (18)
- 2025年10月 (9)
- 2025年9月 (16)
- 2025年8月 (7)
- 2025年7月 (12)
- 2025年6月 (10)
- 2025年5月 (9)
- 2025年4月 (13)
- 2025年3月 (16)
- 2025年2月 (12)
- 2025年1月 (8)
- 2024年 (141) ▾

越生町の学校法人一川学園清和学園高等学校は13日、同校初の文化祭で生徒が同町特産の梅を使ったオリジナルメニューを考案し販売を行った他、生徒が考えた同町にちなんだ催しも行われました。考案されたメニューは梅だれ付きの肉巻きおにぎりと、梅ソースのかかったホットドッグ。多くの来場者で賑わいを見せ、活気が溢れる文化祭となりました。

同校調理科の2・3年生が販売を行い、メニューは夏休みなどに生徒が有志で集まり考案しました。

梅だれ付きの肉巻きおにぎりは、同町のブランド梅「越生べに梅」の練り梅と寺田養蜂園のはちみつを使用し、酸味と甘みのバランスを調整しながら、ごはんに合うタレになるよう経節などの調味料を加え仕上げました。

梅ソースのかかったホットドッグは、「越生べに梅」の練り梅と甘露梅を使用することで、味のバランスを取りつつ、梅の果肉感も楽しめます。蛇腹切りにしたソーセージと、歯応えが出すぎないように茹でたキャベツと合わせることで、ホットドッグならではの味わいに梅がアクセントとなった逸品に仕上がりました。

梅だれ付きの肉巻きおにぎりを考案した小野寺さんは「梅の味が引き立つように他の素材とのバランスにこだわりました。『越生町の梅はこんなに美味しいんだ！』ということが少しでも広まると嬉しければ嬉しいです」と話しました。

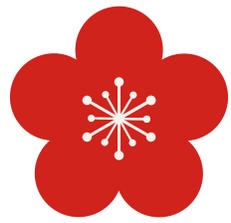
生徒の署名活動で実現した  
本校初の文化祭でも試作を重ねた  
「梅だれ」レシピを提供



梅だれ付き  
肉巻きおにぎり

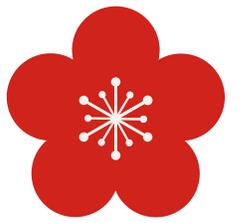


ホットドッグ  
梅ソース



# 第31回全国梅サミット in 越生町

(令和8年2月13日・14日開催予定)



梅を資源とする全国13市町の首長が集まり地域を盛り上げるために交流する会議である梅サミットが令和8年2月に越生町で開催されるにあたり、生徒による発表と料理の提供により協力する予定。

- 生徒によるマイスター・ハイスクール成果発表

- 「梅に気づかされた面白さと難しさ」

- 来場者へ梅レシピ料理の提供 (予定)

- 里芋の煮っころがし (梅ソースがけ)

- 梅だれつけ麺 (パスタ)

- 肉巻きおにぎり (梅だれ付き)

- チョコレート (梅・ゆず使用) ※首長手土産

「万能梅だれ」  
を披露予定



# 清和学園MHSカリキュラム

# 令和7年度の全体カリキュラム

- 1年次は学科共通で「越生町」を学び、成果物の作成・発表を行うことにより学びを深める。
- 自動車科は「CASE + α」の学びからヒントを得て、地域課題であるゼロカーボン活動を実施。
- 調理科は「特産品」を使ったレシピ・商品開発を通して地域課題の解決に取り組む。

	1年次	2年次	3年次
自動車科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくり (GT-R)</li> <li>・運転支援 (アイサイト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CASE + α 自動運転バス/クリーンエネルギー</li> <li>・エコカー (FCEV)</li> <li>・エコカー (e-Power)</li> <li>・最新整備技術入門</li> <li>・運転支援 (プロパイロット)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能コンクール</li> </ul>
調理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・越生町を学ぶ (概論)</li> <li>・越生町を学ぶ (成果発表会)</li> <li>・越生町を学ぶ (ゲームクリエイター)</li> <li>・越生町を学ぶ (ICT基礎)</li> <li>・越生町を学ぶ (料理写真撮影)</li> <li>・越生町を学ぶ (クリスマスコンテスト)</li> <li>・越生町を学ぶ (飲食店開業講座)</li> <li>・越生町を学ぶ (薬膳を学ぶ)</li> <li>・越生町を学ぶ (特産品授業)</li> <li>・越生町を学ぶ (越生町特産品ポスター制作)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTによる地域課題解決</li> <li>・料理写真撮影</li> <li>・クリスマスコンテスト</li> <li>・飲食店開業講座</li> <li>・薬膳を学ぶ</li> <li>・チョコレートプロジェクト</li> <li>・特産品レシピ・商品開発による地域課題解決</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境とクルマについて学ぶ</li> <li>地域課題解決</li> <li>・ゼロカーボンを考える/推進する</li> <li>・校内ランチ販売 (大量調理)</li> <li>・立食ビュッフェを学ぶ</li> <li>・特産品ランチ校内販売</li> <li>・特産品レシピ立食ビュッフェ (卒業作品展)</li> </ul>

# 令和7年度の全体カリキュラム

- 1年次は学科共通で「越生町」を学び、成果物の作成・発表を行うことにより学びを深める。
- 自動車科は「CASE+α」の学びを通して、地域課題を解決する。ローカーボン活動を実施。
- 調理科は「特産品」を使ったレシピ・商品開発を通して地域課題の解決に取り組む。

## 3年間を通じて大小のPBLを積み重ねる人材育成

	1年次	2年次	3年次
自動車科	<p><b>越生町を学ぶ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくり (ST-R)</li> <li>SDGs (成果発表会)</li> <li>ICTを学ぶ</li> <li>越生町を学ぶ</li> <li>越生町クイズゲーム制作</li> <li>越生町を学ぶ</li> <li>ゲームクリエイター</li> <li>ICT基礎</li> </ul>	<p><b>CASE+α</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動運転バス/エレクトロニクス</li> <li>エコカー (FCEV)</li> <li>最新整備技術入門</li> <li>運転支援 (プロパゲイト)</li> <li>エコカー (e-Power)</li> <li>ICTによる地域課題解決</li> </ul>	<p><b>地域課題解決</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境と課題について学ぶ</li> <li>解決を考える/推進する</li> </ul>
調理科	<p><b>越生町を学ぶ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>料理写真撮影</li> <li>クリスマスコンテスト</li> <li>飲食店開業講座</li> <li>薬膳を学ぶ</li> <li>越生町特産品授業</li> <li>越生町特産品ポスター制作</li> </ul>	<p><b>特産品を活用した商品開発による地域課題解決</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クリスマスコンテスト (ポスター制作)</li> <li>チョコレートプロジェクト</li> <li>特産品レシピ・商品開発による地域課題解決</li> </ul>	<p><b>地域課題解決</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内ランチ販売 (大量調理)</li> <li>立食ビュッフェを学ぶ</li> <li>特産品ランチ</li> <li>特産品レシピ・立食ビュッフェ (卒業作品展)</li> </ul>

# 1年次

## 越生町を学ぶ SDGs・ICTを学ぶ

越生町職員授業

SDGs授業／  
カードゲーム

ICT基礎／  
ゲームクリエイター  
から学ぶ

成果物制作

動画

ポスター

クイズ

ゲーム

成果発表

## 自動車科

CASEからの学びによる  
地域課題解決

## CASE+α 授業

ものづくり

EV

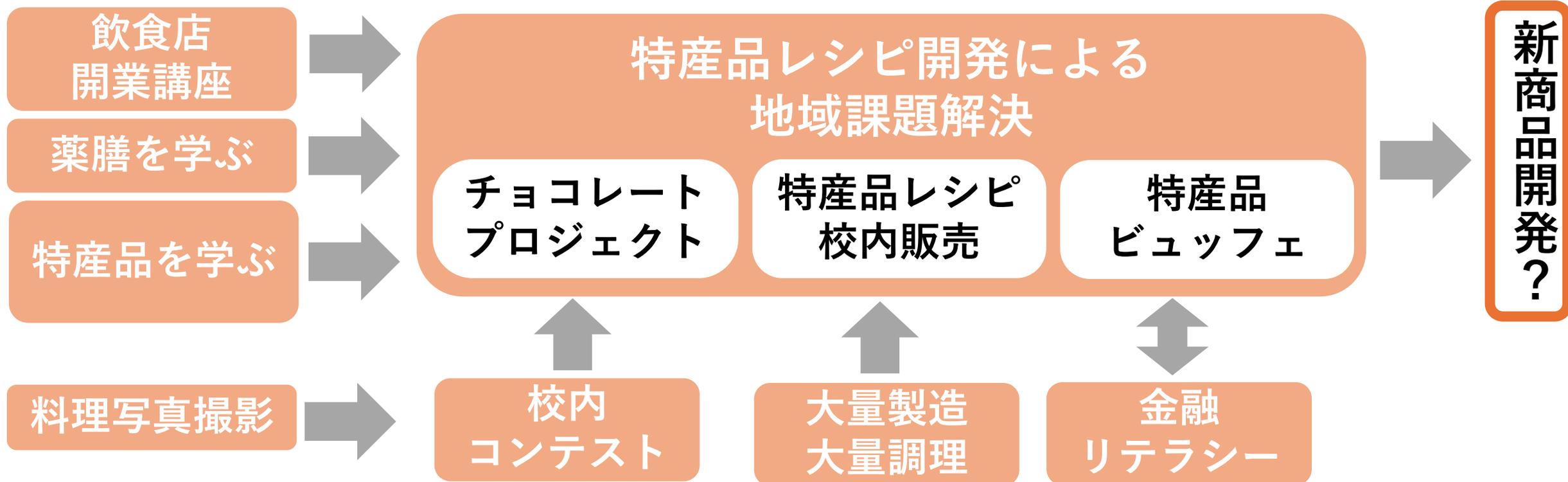
自動運転

クリーンエネルギー

運転支援

自動車ディーラー  
社内コンクール環境とクルマ  
について学ぶ校内技能  
コンクール環境フェアで  
の成果発表と  
技能実践

## 調理科

特産品レシピ・商品開発  
による地域課題解決

# 授業/プロジェクトと能力・スキルの関係図

授業名/PJ名	実施時期	自動車科			調理科			越生町理解	サステナビリティ理解	デジタルリテラシー	コンセプチュアルスキル	アントレプレナーシップ
		1年	2年	3年	1年	2年	3年					
越生町を学ぶ	5月～6月	○			○			○	○	○	○	○
SDGsを学ぶ	6月	○			○			○	○		○	
ゲームクリエイターから学ぶ	7月	○			○					○	○	○
越生町を学ぶ成果発表	10月～11月	○			○			○	○	○	○	○
ICTによる地域課題解決	11月	○						○	○	○	○	○
最新技術を体感する (VR)	12月	○			○					○	○	
越生町の課題を発見する	6月		○			○		○	○		○	○
CASE+α	7月～11月	○	○	○					○	○	○	○
環境とクルマ	1月		○					○	○		○	
最新整備技術入門	2月		○							○		○
技能コンクール	5月～6月			○						○	○	○
越生町の課題解決を実践する	10月～11月			○				○	○	○	○	○
特産品授業	5月				○	○	○	○	○			
クリスマスコンテスト	12月				○	○				○	○	○
料理写真撮影	11月				○					○	○	○
飲食店開業講座	11月				○					○	○	○
薬膳を学ぶ	11月～12月				○			○				○
チョコレートPJ	4月～2月					○		○	○	○	○	○
特産品ランチ学内販売	7月						○	○	○	○	○	○
学内販売から学ぶ飲食店運営	12月						○				○	○
特産品レシピ立食ビュッフェ	12月～3月						○	○	○	○	○	○

# 3年間のカリキュラム構成と学びの積み重ね

## • 1年次

- 地域理解やICT基礎に取り組み、成果物の作成や発表を通して、地域への理解を深めるとともに、見られる・伝える経験を積む

## • 2年次

- 専門性を生かした小規模なプロジェクトにより、方法を考え、試し、改善する経験を重ねる

## • 3年次

- 2年次に続き、社会実践や競い合う場に参加、技能や提案を用いて価値を提供する経験を行う

実践をゴールとした逆算で、学びを段階的に配置することで、無理なく発展するよう構成

# カリキュラム構築のポイント

- 育てたい人材像から能力・スキルを定義し、授業・プロジェクトに紐づけて設計
- 既存の学校施策を活用し、マイスター・ハイスクールの視点で再構成
- 授業・プロジェクトを年中行事化することで定着
- 入学直後にデジタルリテラシー育成を集中的に実施し、以降の学びの土台とする
- 通信制の特性を生かし、時間割を柔軟に組み替えて実践時間を確保

# MHS事業を通じた清和学園の変容

# MHSを通して見られた生徒の変容

## 「学び」を「使う」

- 生徒は課題に取り組む中で、**社会の中で技能を使うことを意識する場面が増えてきた**

## 考えて試す力の定着

- 社会実践や競い合う機会を通じて、**創意工夫や試行錯誤を重ねながら改善しようとする姿が継続的に見られるようになった**

## やりたいを行動に

- 学校になかった文化祭の実現に向けて提案や署名活動など、**実現に必要な行動を自ら起こす生徒が見られた**

# 変容は「本番 × 競争 × 振り返り」から生まれた

- 大小のプロジェクトでは「本番」を設定、そこを目標としてグループでの試行錯誤、切磋琢磨を発生させた
- 競い合う経験を通じて、「なぜうまくいったのか」「どこを工夫すべきか」を考える姿が見られた
- 振り返りと改善がつながる場面が増え、学びが循環している様子がかがえた



**生徒の資質ではなく構造によって発生**

# 生徒のルーブリック自己評価 実施概要

## • 目的

- マイスター・ハイスクール事業を通して策定したビジョン（目指す人材像）に基づき、そこから整理したスキル・能力が、生徒にどの程度育成されたかを把握する。

## • 対象・方法

- 3年生を対象に、授業・プロジェクト全体を振り返るルーブリック自己評価（4段階・全10設問）を実施。

## • 評価の考え方

- 事業ビジョンから整理したスキル・能力を評価項目として設定
- 各設問は4段階で構成し、**レベル3を到達目標**として設計
- 知識量や正解を測る評価ではなく、学びの過程と到達状況を可視化
- 生徒の自己評価により、事業全体としての育成状況を定量的に把握

## • 評価項目

- デジタルリテラシー
- コンセプチュアルスキル
- アントレプレナーシップ
- サステナビリティ理解
- 越生町理解

# ループリック自己評価の結果①

80%以上 75%以上

スキル・能力	確認内容	到達目標（レベル3）以上の回答割合		
		全体	自動車科	調理科
デジタルリテラシー	デジタル技術による社会・産業の変化を理解	85.7%	80.0%	91.7%
	タブレットなどのデジタルツールを用いて、自分の考えを表現・共有するなど、実際に活用できていたかを確認	73.5%	60.0%	87.5%
コンセプチュアルスキル	個人として課題に向き合う中で、考え直したり別のやり方を試したりできていたかを確認	81.6%	80.0%	83.3%
	集団の中で意見を整理し、話し合いを前に進める思考に関わっていたかを確認	89.8%	92.0%	87.5%
アントレプレナーシップ	考えるだけで終わらせず、一步踏み出して行動できていたかを確認	71.4%	64.0%	79.2%
	うまくいかない状況でも、工夫や改善を重ねながら取り組み続けられていたかを確認	79.6%	76.0%	83.3%
サステナビリティ理解	SDGsの考え方を通して、社会や産業が続いていくために大切な視点を理解できていたかを確認	83.7%	84.0%	83.3%
	その考え方を授業やプロジェクトの取り組みの中で意識できていたかを確認	40.8%	44.0%	37.5%
越生町理解	越生町がどのような課題や目標を持つ地域かを理解できていたかを確認	85.7%	80.0%	91.7%
	その理解をもとに、地域の役に立つことを考え、行動や実践につながられていたかを確認	71.4%	64.0%	79.2%

※実際の設問・選択肢は参考資料として添付

# ルーブリック自己評価の結果について②

## • 全体傾向

- 多くの設問でレベル3以上の回答割合が80%以上となり、事業として目指してきた能力・スキルの育成は概ね達成できたと考えられる。
- 特にコンセプチュアルスキルについては、両学科ともに個人およびグループで試行錯誤しながら課題に取り組む機会が意図通りに機能した。

## • 相対的に伸びにくかったスキル・能力

- アントレプレナーシップについては生徒が行動の主体性を自覚する機会、サステナビリティ理解（取り組みとの結びつき）については実践内容とサステナビリティとの関係を認識する機会が不十分であったこと、また、それぞれのルーブリック設問・選択肢の表現がわかりにくかったことが考えられる。

## • 学科間差が見られた点

- 越生町理解・デジタルリテラシー（表現に関する設問）については調理科の方が高い結果となったが、調理科でデジタル表現の機会や地域との接点が多かったのに対して、自動車科ではそれらの機会が限定的であったことに起因すると考えられる。

## • 自己評価結果から見えた今後の課題

- 自動車科におけるデジタル表現機会、地域との接触機会を増加させる。
- アントレプレナーシップやサステナビリティ理解について、ルーブリックの表現を見直すとともに、生徒が自らの成長を実感できる学習設計をめざす。

# MHSを通して見られた教員・学校の変容

## 社会で使う学びへ

- 「学び」を教室内で完結させず、**社会で実際に使うことを前提に、授業や活動を設計する**場面が増えた。

## 反応を踏まえた改善

- 授業や活動全般で、外部からの反応や結果を踏まえ、学校として**PDCAを回しながら改善を重ねようとする兆し**が見られるようになった。

## 協働と柔軟な運営

- 外部人材や関係機関との協働を通じて役割分担や**調整の経験が蓄積**され、生徒の提案に対しても**前例にとらわれず計画や運営を調整**できるようになった。

# 「本番 × 外部基準 × 慣習更新」が変容を生んだ

- 「本番」を組み込み、生徒が社会で学びを使うようになったことで、教員も社会で成立する授業設計と改善（PDCA）へ移った。
- 産業実務家教員の外部基準による取組で生徒が変化したことに応じて、教員・学校は外部連携と運営を見直すようになった。
- MHSで学科横断・地域連携が前提となり、前例に頼らず目的起点で計画・運営を柔軟に調整する経験が蓄積した。



**生徒の変化に応え、教員・学校が変わった**

CEOの果たしてきた役割について

# 清和学園におけるMHS CEOの役割

## MHSビジョン（目指す人材像・価値観）を学校現場で実践できるように全体を推進

- 目指す人材像・価値観を、各学科のカリキュラムやプロジェクト設計に反映
- 学校・自治体・企業・大学を横断し、連携を授業や社会実践として成立させた
- 生徒が社会の中で課題に向き合い、実践と改善を繰り返す学びの場を設計
- 教員・外部人材・地域が同じ方向で動くための調整と進行管理を担った

# 協働体制構築におけるCEOの役割

- 学校の教育目的と、地域・企業・大学それぞれの関心や強みを整理し、相互に成立する協働の枠組みを設計
- 単発の協力やイベントにとどめず、授業・プロジェクトとして継続する連携スキームを構築
- 外部連携を教育活動に組み込み、生徒が社会の中で役割を持って実践する場を設定
- 関係主体間の調整役として、方向性のすり合わせと進行管理を担った

# 持続的連携は「共通の目的」ではなく「手段の補完」

## 教育機関

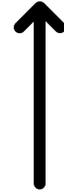


能力・スキルの向上、  
経験の獲得

体験型授業、社会で実  
践するプロジェクト

異なる目的の  
理解と尊重

目的



手段

≠

目的



手段

補完関係

## 地域・企業



課題解決や人材確保など  
の地域・企業の利益

生徒の能力・スキル活用、  
生徒との接点獲得

事業終了にあたっての振り返り

# 取組を振り返って見えてきた社会実践型PBL

- **地域を学び、発見した課題に対して、専門分野の知識・技能を実践の手段として、実装を必須とせず試行的に実社会で実践する取組を積み重ねてきた。**
- **普通高校では実践の手段を持ちにくく課題解決が提案にとどまりやすいのに対し、専門高校では知識・技能そのものを使って実行できるため、社会的フィードバックを伴う実践が成立しやすい。**
- **こうした取組を振り返り、CEOとして、専門高校ならではの学びの形として「社会実践型PBL」と整理したいと考えている。その過程で、地域の価値や魅力を捉え直し、共有する場面が生まれていることも確認された。**

# 今後の自走に期待すること

## • 教科評価のMHS対応

- 通信制高校の特徴であるテスト・レポートを、教科書ベースにとどめず、MHSでの学びや実践内容を反映した評価へ、無理のない範囲で段階的にカスタマイズしていく

## • 共通科目へのMHS型学びの再配置

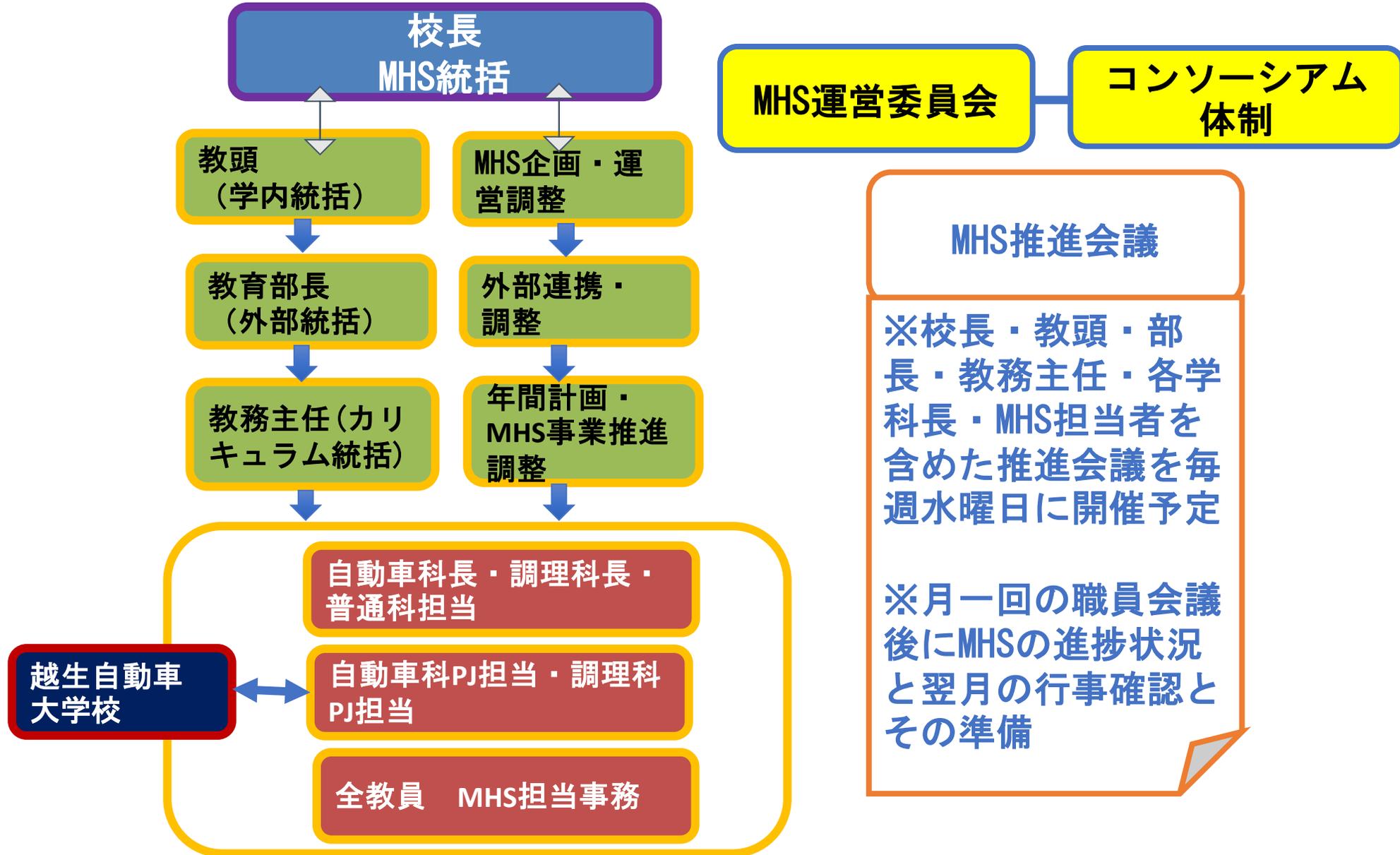
- 学習指導要領や評価の枠組みを踏まえ、プレゼンテーションを国語、原価計算を数学で扱うなど、MHS型の学びの一部を共通科目へ移すことで、専門科目ではより発展的・実践的な内容に集中できる構造をつくり、学校全体でマイスター・ハイスクールに取り組む体制につなげる

## • 普通科におけるMHS的学びの展開

- 共通的な学びで培った視点を生かし、普通科として地域課題に取り組む学びを、普通科単独での実施や自動車科・調理科など各学科との連携を組み合わせながら展開することで、学校全体でMHSの取り組みに弾みをつけていく

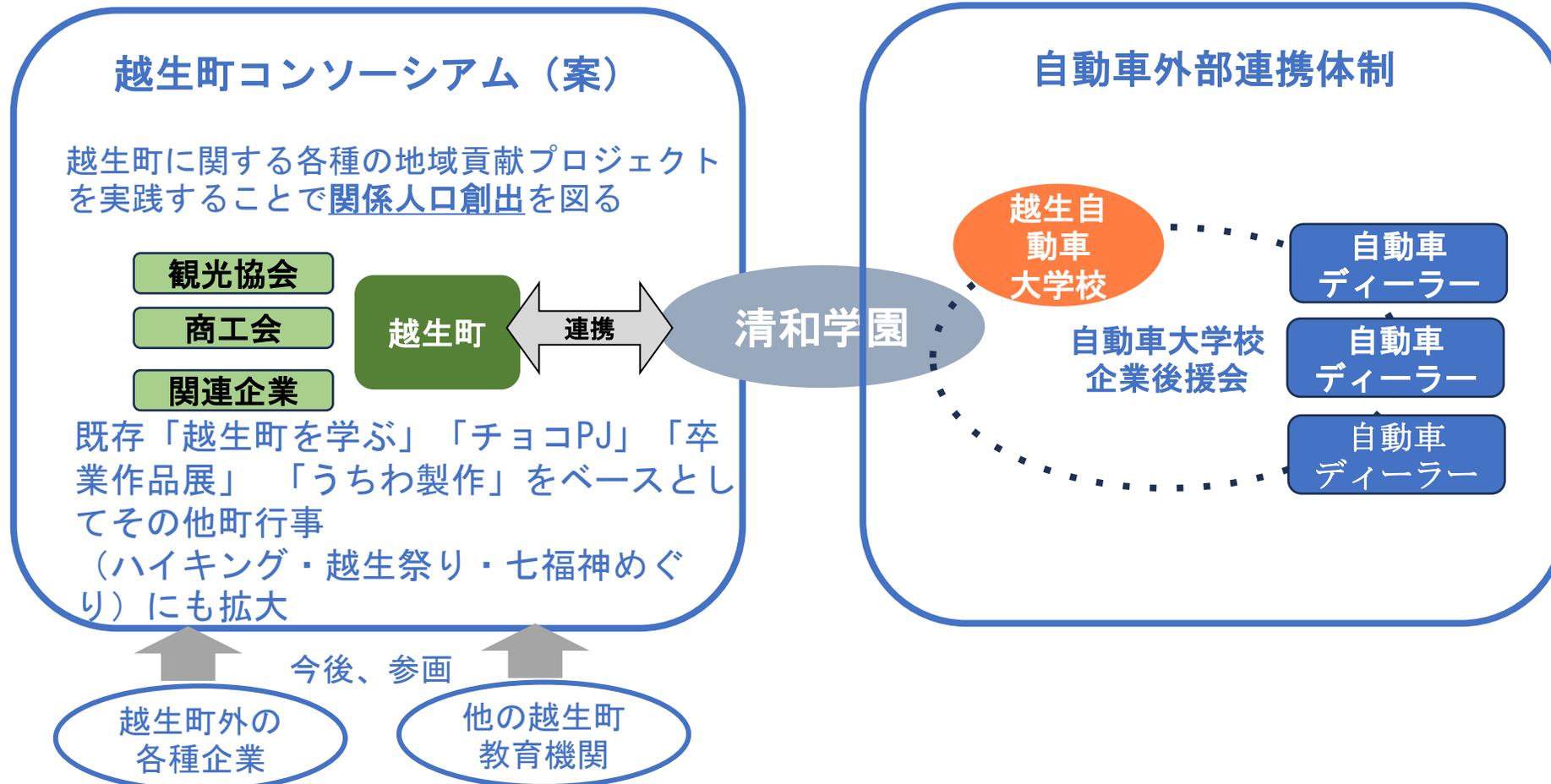
今後の自走について

# 自走に向けた学園内部体制図(案)



# 自走に向けたコンソーシアム体制図(案)

- 自走に向けて、外部機関との連携は仕組み化を検討したい
- 連携体制は一つではなく、目的別に複数进行想定する



# 自走に向けて連携の深化

- ◎地域（小・中・高）との継続的な連携
- ◎地域課題をテーマにしたプロジェクト  
学習の推進
- ◎地域イベント等での成果共有と循環型学習
- ◎関係人口の創出

# 実践的な学びの拡張

◎高校生レストラン構想

◎接客・調理・経営の実践

◎地域住民との交流の場の創出

# 環境・地域経済への貢献

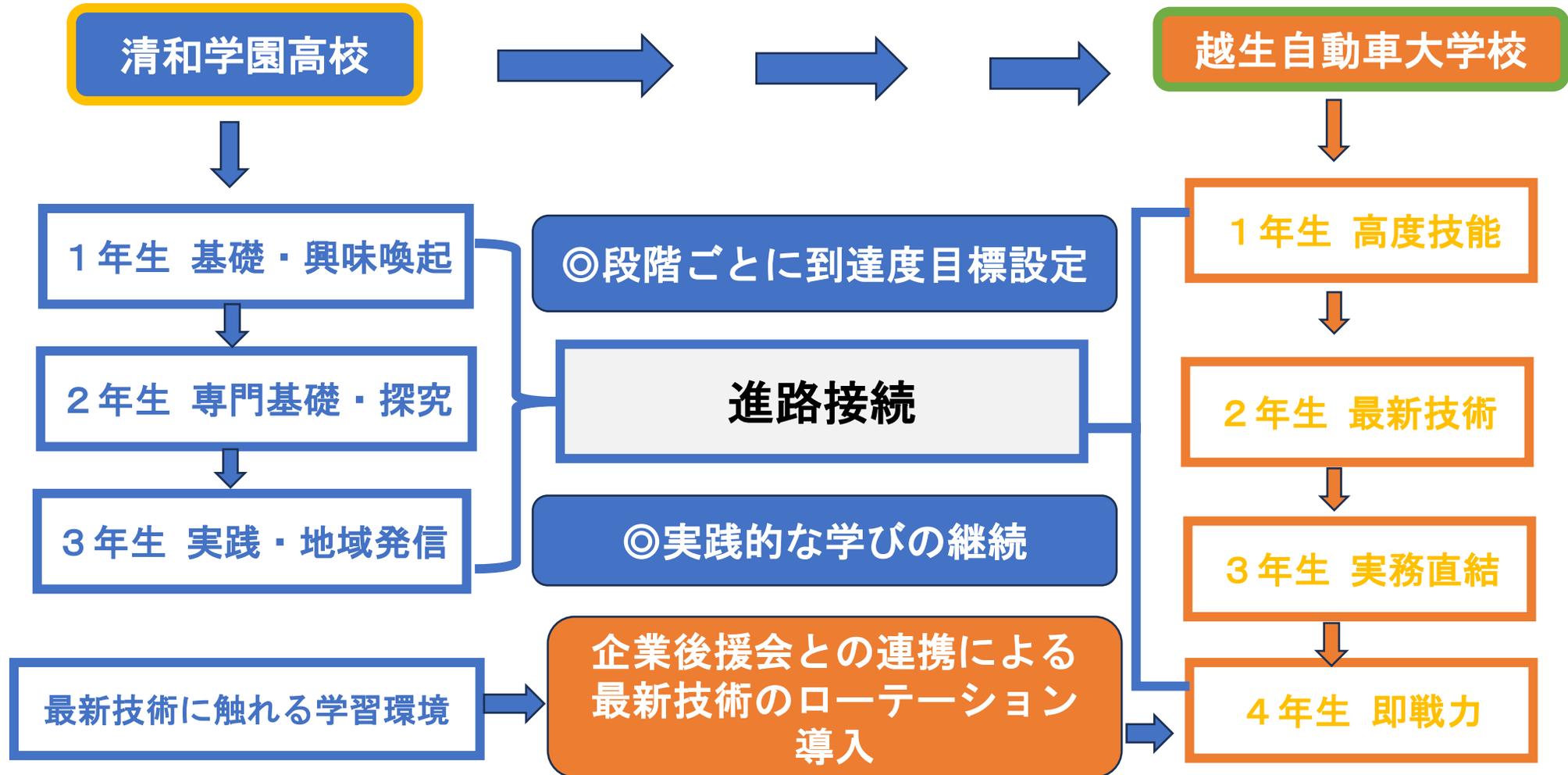
◎ゼロカーボン対応

(EV・ハイブリット技術教育)

◎地域資源を活かした商品開発

◎ふるさと納税・地域ブランド化

# 7年一貫教育（自動車科）と産学連携



# 今後の課題と展望

- ◎一過性にしない連携体制づくり
- ◎教職員の負担軽減と後継者育成
- ◎評価基準と進捗管理
- ◎他校・自治体との共通目標設定
- ◎通信制高校少人数の教育体制

以下、参考資料

# ルールブリック自己評価

# ルーブリック自己評価 実施概要

## • 目的

- マイスター・ハイスクール事業を通して策定したビジョン（目指す人材像）に基づき、そこから整理したスキル・能力が、生徒にどの程度育成されたかを把握する。

## • 対象・方法

- 3年生を対象に、授業・プロジェクト全体を振り返るルーブリック自己評価（4段階・全10設問）を実施。

## • 評価の考え方

- 事業ビジョンから整理したスキル・能力を評価項目として設定
- 各設問は4段階で構成し、**レベル3を到達目標**として設計
- 知識量や正解を測る評価ではなく、学びの過程と到達状況を可視化
- 生徒の自己評価により、事業全体としての育成状況を定量的に把握

## • 評価項目

- デジタルリテラシー
- コンセプチュアルスキル
- アントレプレナーシップ
- サステナビリティ理解
- 越生町理解

# 設問・選択肢

スキル・能力	設問	選択肢（レベル4）	選択肢（レベル3）	選択肢（レベル2）	選択肢（レベル1）
デジタルリテラシー	これまでの授業やプロジェクト、マイスター・ハイスクールの学びを通して、デジタル技術やICT技術によって社会や仕事のしかたが変わってきていることを理解することができていましたか。自分の取り組みに一番近いものを選んでください。	社会や仕事の変化を、具体的な事例と結びつけて理解できていた	社会や仕事のしかたが変わってきていることを理解できていた	変化していることは分かっていたが、理解はあいまいだった	デジタル技術による変化について、あまり理解できていなかった
	これまでの授業やプロジェクトの中で、学校で使っているタブレットを使って、自分の考えや意見を形にしたり、相手に伝えたりすることができていましたか。自分の取り組みに一番近いものを選んでください。	目的に合わせて工夫しながら、分かりやすく伝えられていた	考えや意見を形にし、相手に伝えられていた	使ってはいたが、伝え方の工夫は少なかった	考えや意見を表現することがほとんどできていなかった
コンセプトアールスキル	これまでの授業やプロジェクトの中で、課題に対して自分なりに考え方を工夫したり、別の見方ややり方を考えたりすることができていましたか。自分の取り組みに一番近いものを選んでください。	状況に応じて考え方を切り替え、よりよい方法を考えられていた	考え方を工夫したり、別の見方を考えたりできていた	指示された方法で考えることが多く、工夫は少なかった	自分で考えたり工夫したりすることができていなかった
	これまでの授業やプロジェクトで、グループで話し合うときに、出てきた意見を比べたり理由を考えたりしながら、考えを整理して話し合いを前に進めることができていましたか。自分の取り組みに一番近いものを選んでください。	意見の良さや課題を整理し、考えをまとめることにしっかり関わっていた	意見を比べたり整理したりして関わっていた	参加はしていたが、整理する関わりは少なかった	話し合いを前に進める考え方にほとんど関わっていなかった
アントレプレナーシップ	これまでの授業やプロジェクトの中で、新しいアイデアややりたいことを考えるだけで終わらず、まず一歩踏み出して行動することができていましたか。自分の取り組みに一番近いものを選んでください。	自分から行動に移し、次につなげることができていた	行動しようと考え、実際に行動につなげられていた	考えることはできていたが、行動まで至らなかった	行動するところまでできていなかった
	これまでの授業やプロジェクトの中で、うまくいかない状況や思うように進まない場面があっても、そのまま止まらず、やり方を見直したり工夫したりしながら、粘り強く取り組み続けることができていましたか。自分の取り組みに一番近いものを選んでください。	状況をふまえて改善し、粘り強く取り組んでいた	工夫しながら取り組み続けることができていた	うまくいかないと止まってしまうことがあった	途中で取り組みをやめてしまうことが多かった
サステナビリティ理解	これまでの授業やプロジェクト、マイスター・ハイスクールの学びを通して、SDGsで示されているように、社会や産業がこの先も続いていくためには、環境・資源・人のつながりを考えることが大切だと理解することができていましたか。自分の取り組みに一番近いものを選んでください。	重要性を具体的に理解できていた	重要であることを理解できていた	聞いたことはあるが理解はあいまいだった	あまり理解できていなかった
	これまでの授業やプロジェクトの中で、SDGsの考え方をふまえて、自分たちの取り組みが、社会や産業のこれからや将来につながっているかを考えることができていましたか。自分の取り組みに一番近いものを選んでください。	将来とのつながりまで考えられていた	取り組みと社会の関係を考えられていた	考えることはあったが整理できていなかった	ほとんど考えられていなかった
越生町理解	入学時にはほとんど知らなかった越生町について、これまでの授業やプロジェクト、マイスター・ハイスクールの学びを通して、どのような考えや方針をもって、どんな取り組みを進めている地域なのかを理解することができるようになっていましたか。自分の取り組みに一番近いものを選んでください。	学科の学びと結びつけて具体的に理解できていた	方向性や取り組みを理解できていた	学ぶ機会はあったが理解はあいまいだった	理解するところまで至ってなかった
	これまでの授業やプロジェクト、マイスター・ハイスクールの学びを通して、越生町について理解したことをもとに、自分たちの学びや取り組みを生かして、地域の役に立つことを考え、行動や実践につなげることができていましたか。自分の取り組みに一番近いものを選んでください。	地域にとって意味のある行動や実践につなげられていた	地域の役に立てようと考え、行動につなげられていた	考える場面はあったが、行動まで至らなかった	行動するところまでできていなかった

# ループリック自己評価 回答割合

スキル・能力	設問	レベル4			レベル3			レベル2			レベル1		
		全体	自動車科	調理科	全体	自動車科	調理科	全体	自動車科	調理科	全体	自動車科	調理科
デジタルリテラシー	デジタル技術による社会・産業の変化を理解	40.8%	36.0%	45.8%	44.9%	44.0%	45.8%	12.2%	16.0%	8.3%	2.0%	4.0%	0.0%
	タブレットなどのデジタルツールを用いて、自分の考えを表現・共有するなど、実際に活用できていたかを確認	32.7%	24.0%	41.7%	40.8%	36.0%	45.8%	14.3%	24.0%	4.2%	12.2%	16.0%	8.3%
コンセプチュアルスキル	個人として課題に向き合う中で、考え直したり別のやり方を試したりできていたかを確認	38.8%	44.0%	33.3%	42.9%	36.0%	50.0%	14.3%	16.0%	12.5%	4.1%	4.0%	4.2%
	集団の中で意見を整理し、話し合いを前に進める思考に関わっていたかを確認	40.8%	40.0%	41.7%	49.0%	52.0%	45.8%	8.2%	8.0%	8.3%	2.0%	0.0%	4.2%
アントレプレナーシップ	考えるだけで終わらず、一步踏み出して行動できていたかを確認	32.7%	28.0%	37.5%	38.8%	36.0%	41.7%	22.4%	28.0%	16.7%	6.1%	8.0%	4.2%
	うまくいかない状況でも、工夫や改善を重ねながら取り組み続けられていたかを確認	36.7%	36.0%	37.5%	42.9%	40.0%	45.8%	16.3%	20.0%	12.5%	4.1%	4.0%	4.2%
サステナビリティ理解	SDGsの考え方を通して、社会や産業が続いていくために大切な視点を理解できていたかを確認	40.8%	40.0%	41.7%	42.9%	44.0%	41.7%	12.2%	12.0%	12.5%	4.1%	4.0%	4.2%
	その考え方を授業やプロジェクトの取り組みの中で意識できていたかを確認	40.8%	44.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	51.0%	44.0%	58.3%	8.2%	12.0%	4.2%
越生町理解	越生町がどのような課題や目標を持つ地域かを理解できていたかを確認	38.8%	36.0%	41.7%	46.9%	44.0%	50.0%	8.2%	12.0%	4.2%	6.1%	8.0%	4.2%
	その理解をもとに、地域の役に立つことを考え、行動や実践につなげられていたかを確認	32.7%	28.0%	37.5%	38.8%	36.0%	41.7%	22.4%	28.0%	16.7%	6.1%	8.0%	4.2%

# 自動車科3年 技能コンクール

## 授業名・プロジェクト名

技能コンクール

## 対象

自動車科	調理科	普通科
1年	2年	3年

## 実施時期

- 事前授業：5/15、本番：6月26日

## 能力・スキル

越生町理解	サステナビリティ	
デジタルリテラシー	コンセプトチュアルスキル	アントレプレナーシップ

## 連携企業

- 埼玉トヨタ自動車株式会社

## 授業概要

- 整備技能とチームワークの向上を目的に技能コンクールを実施。事前には整備士経験のある外部講師を招き、整備士の心構えや4S、安全管理の重要性について学んだ。
- 生徒は競技内容を自ら検討し、作業の手順や役割分担を工夫しながら練習を重ねた。練習風景は動画で記録し、映像をもとにチームごとに振り返りを行い、改善点を話し合う中でPDCAサイクルを実践した。
- 本番では、安全性や作業の正確さ、声かけや連携を意識しながら、限られた時間内で真剣に課題に取り組む姿が見られた。実践を通して主体性や協働性が育まれた。

## 成果

- ディーラー社員の授業で「最終的なお客様」を意識する視点を学び、生徒はサービス全体の質を意識して技能コンクールに臨みました。
- 映像を使った振り返りで課題に気づき、PDCAを回して改善。チームで話し合い、他班の工夫も取り入れながら切磋琢磨する姿勢が育ちました。お客様目線の声かけや説明など、実践を通して総合的なサービス力が高まりました。

# 技能コンクール（5月～6月）自動車科3年



各班の現状ど  
やる項目

	1班	2	3	4	5
・ローテーション	○		○	○	○
・ヘッド脱着	○		○		
・日常点検	○			○	○
・24ヶ月点検		○			
・タイヤの点検			○	○	○
・ワイパー類の点検				○	○
記録簿へ記入	○	○	○	○	○



埼玉トヨタ自動車様の事前授業では  
コンクールや整備士の心構えなどを学ぶ

競技の実施内容は生徒自身が  
考え、何度か試行して決定

練習風景を撮影して動画で振り返り、  
議論して改善を検討



来賓・保護者に加えて後輩や隣接する専門学校生、100名超に囲まれてコンクール本番を実施

# 技能コンクール ルーブリック自己評価

能力・スキル	観点	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
アントレプレナーシップ	練習のとき、自分からやることに気づいて、行動することができましたか？	まわりのことにも気を配って、自分から声をかけたり、チームを助ける行動ができた	やるべきことに気づいて、進んで行動するようにしていた	やることは分かっていたけど、自分から動くことは少なかった	言われてから動くことが多かった
主体性・行動力		10	11	3	1
コンセプチュアルスキル	作業の流れや順番、説明のしかたなどを、チームで考えて分かりやすくなるように工夫できましたか？	動きや説明をくり返し見直して、観客やチーム全体のことを考えた工夫ができた	順番や説明をみんなで考えて、やりやすく分かりやすい形にできた	基本の流れや説明は決めたけど、もっと工夫できたと思う	作業はできたけど、順番や説明の工夫まではあまりできなかった
構想力・論理性		6	10	8	1
アントレプレナーシップ	他のチームのやり方を見て、「いいな」と思ったところを自分たちにも取り入れることができましたか？	まねするだけでなく、自分たちなりに工夫して取り入れることができた	いいところを見つけて、自分たちでもやってみた	「やってみたい」と思ったけど、あまり実行できなかった	他のチームは見えていたけど、自分たちにはあまり取り入れられなかった
柔軟性・応用力		4	14	5	2
デジタルリテラシー	練習の録画映像を見たことは、やり方の改善に役立ちましたか？	映像をもとにチームで具体的に話し合い、実際にやり方を変えて良かった	映像を見て自分たちの動きを客観的に見直し、やり方を工夫するきっかけになった	どこが良くなかったかは何となく分かったが、はっきりとは改善につながらなかった	映像を見たが、自分たちの改善にはあまり結びつかなかった
メディア活用・分析力		5	11	8	1
コンセプチュアルスキル	練習でうまくいかなかったところを、やり方を変えて良くすることができましたか？	自分や仲間の気づきをもとに、チームで相談しながら何度も改善できた	うまくいかなかったところを見直して、やり方を変えることができた	気になるところはあったけど、あまりやり方は変えられなかった	直した方がいいところは分かったけど、どう変えたらいいか分からなかった
改善・実行		11	11	0	3
コンセプチュアルスキル	「計画 → やってみる → ふり返る → 直す (PDCA)」の流れを意識して行動できましたか？	ふり返りや相談を通して、自分たちのやり方を何度も調整・改善することができた	ふり返って見直したことを、次の練習や本番に活かそうと意識した	なんとなくふり返りはしたが、計画的に直すところまではできなかった	やることをこなすので精一杯で、ふり返って直すところまでは意識できなかった
継続的改善		11	11	2	1
アントレプレナーシップ	本番では、練習で決めたことや工夫したことを発揮することができましたか？	練習で考えた工夫や改善を、本番でも自信をもって発揮できた	練習の成果を出せたと感じる場面がいくつかあった	一部はうまくできたが、まだ力を出しきれなかった	練習でやってきたことを本番ではうまく出せなかった
実行力		9	9	5	2

# 調理科3年 卒業作品展

※3月が本番のため、実施模様は昨年度のもの

## 授業名・プロジェクト名

特産品レシピ立食ビュッフェ  
(卒業作品展)

## 対象

自動車科	調理科	普通科
1年	2年	3年

## 実施時期

- 2025年12～3月

## 能力・スキル

越生町理解	サステナビリティ	
デジタルリテラシー	コンセプチュアルスキル	アントレプレナーシップ

## 連携企業

- 女子栄養大学/香川調理製菓専門学校
- 松柏軒レストラン

## 授業概要

- レストラン業務を専門とするスタッフの指導を受け、レシピ検討段階から立食ビュッフェに適した料理構成や調理方法を学ぶ事前授業を実施し、完成形を意識したレシピ設計に取り組んだ。
- 調理だけでなく、使用機材、配膳方法、来場者の動きを想定した導線設計、盛り付けや装飾など、立食ビュッフェ形式特有の運営技術について実践的に学習した。
- 本番は保護者およびMHS関係者を中心に約80名の来場を想定し、和・洋・中・デザート の4班体制で実施。各班が町の特産品を活用したレシピを1品以上盛り込み、松花堂弁当の展示と立食ビュッフェの提供を通して、培った技能を発揮する構成とした。

## 成果

3月3日が本番日

# 特産品レシピ立食ビュッフェ（卒業作品展）

- 松柏軒レストラン（学校法人香川栄養学園）のスタッフが来校し、立食ビュッフェとバイキングの違い、会場レイアウトと料理の配置、ビュッフェマナーから考える提供方法などについて授業を実施
- その後、実際の試作品をもとに、ビュッフェに適した分量や見栄えのする食器について、生徒がレストランスタッフに相談



# 【昨年度の実施模様】 特産品レシピ立食ビュッフェ



# 【昨年度の実施模様】 特産品レシピ立食ビュッフェ



鱈のゆず味噌焼き



タコの梅肉和え



ゆずジャム入り  
パウンドケーキ



# 調理科2年 チョコレートPJ

(製造業者によるレシピ指導)

# チョコレートプロジェクト（製造業者によるレシピ指導）

- 山手調理成果専門学校様による指導に加えて、製造協力業者であるコント・ド・フェ様から販売用に大量製造する場合のコストという観点から生徒の考案したレシピについて指導を受けた。
- 授業はオンライン3元中継で実施



チョコPJレシピメモ	日付：2025/5/28
自分の班以外の講師のアドバイスをメモしましょう。	
1班	青色はあまり食欲をそそらないので、もう少し改善できかもし？ 外側のデザインは、手書きに白、たまごかき
2班	作業の作りが大切！ テキパキした方がいい（食べたら硬い） 中に入れれば、中に入れ、外に乗せるなら、外に乗せる。
3班	物に境界があるので、複雑なデザインは、あずかしい テンパリングがホワイトは難しいので気をつけたい
4班	葉の物は、型がないから難しい。全体を葉の物にするのは、難しいが、上に葉の物とした物をのせる。
5班	フィニッシュをイロなのであれば、現実味がある。実際は、少し難しいかもしれないので、もう少し改善する。
6班	事前に、型の方でアラカシを入れておくか、できないか、アラカシを伊りことは可能。見た目その物にして、味もチョコレート
① 班のレシピ <span style="float: right;">自分の班のアドバイスを記入。</span>	
ほめられた・生かした方がよい点 イメージカラーを出しているのはいいと思う。 ～先生のアイデア～ 見た目もへに梅、味もチョコレートとウトリノクを合わせることでおもしろさが増える。	
改善した方がよい点 青色は、あまり食欲をそそらない色になっているため、もう少し改善していきたい。 ジャムを外側にすることは難しいかも（3班）	
次回 話し合った方がよい所を書き出しましょう。 清和が作るとパッケージでも、チョコレートでも分かるようにデザインを考える。 食感にこだわらなら、四角。型にこだわらなら、サクサク感を出すのは、難しい。	

# 調理科3年 金融リテラシー

## 授業名・プロジェクト名

さんちょう食堂から学ぶ金融リテラシー

## 対象

自動車科	調理科	普通科
1年	2年	3年

## 実施時期

- 2025年12月18日

## 能力・スキル

越生町理解	サステナビリティ	
デジタルリテラシー	コンセプトチュアルスキル	アントレプレナーシップ

## 連携企業

- 飯能信用金庫

## 授業概要

- 生徒自身が行った「さんちょう食堂」の実体験を背景として、資金繰りをテーマとした金融リテラシー授業を実施した。自らの活動を前提に扱うことで、金融を知識としてではなく、自分事として捉えられるように設計した。
- 授業では、キャッシュレス決済による売上入金サイクルの遅れに着目し、黒字倒産や運転資金の考え方を解説した。売上や利益が出ていても、現金の動き次第で事業継続が難しくなる構造を理解させたうえで、グループごとに条件を変えて資金繰りを検討するワークを行った。
- 飯能信用金庫の職員が産業実務家教員として担当し、金融機関の実務に基づく説明を行った。実社会の専門家が一貫して授業を担うことで、学びが現実の経済活動と直結していることを生徒が実感できる構成とした。

## 成果

- 生徒のアンケートから、「売上があっても入金が遅れると現金が足りなくなる」といった理解が多く見られ、キャッシュレス決済に伴う資金繰りの構造を具体的に捉えられていることが確認できた。
- また、「事業を続けるにはお金の流れを考える必要がある」「将来や生活にも関係する内容だと思った」といった回答があり、黒字倒産や運転資金の概念を自分事として考えるきっかけとなった。



## もし、毎日営業したら？

- 月曜日から土曜日まで営業（日曜日はお休み）
- 毎日150食分を準備して提供
- 販売価格は400円
- 1食当たりの材料費は360円（原価率90%）
- 日曜日に次週の材料を一括購入して準備をする



1食当たり利益：400円-360円=40円  
 $400円 \times (1-90\%) = 40円$

1週間分の仕入れ代金：360円×150食×6日分  
 $= 324,000円$

## 必要な資金を計算しよう

15分

- 6グループに分かれて資金繰りに必要な資金を計算
- 各グループで条件を変えて実施

### 【共通条件】

- 1食の価格 400円
- 1食の原価  $400円 \times 90\% = 360円$
- 販売数は固定 1日150食×6日（月～土）= 900食
- 仕入れ 日曜日に翌週分を一括仕入れ
- キャッシュレス手数料 3%

### 【グループ別条件】

	キャッシュレス支払率	入金タイミング
1班	15%	1週間後
2班	30%	2週間後
3班	15%	3週間後
4班	60%	2週間後
5班	15%	4週間後
6班	90%	2週間後

本日のまとめ

## 本日のまとめ

- ① 食堂を題材に現金の動き → 資金繰りを知る
- ② 事業を続ける為に利益をだす → 売上・経費・利益を知る

事業を続けるには  
**「資金繰り」を知り、  
 「利益を出す」ことが必要です**

普通科3年 越生うちわ作り

## 授業名・プロジェクト名

越生うちわ作り

### 対象

自動車科	調理科	普通科
1年	2年	3年

### 実施時期

- 事前授業：5/15、本番：6月20日

### 能力・スキル

越生町理解	サステナビリティ
デジタルリテラシー	アントレプレナーシップ
コンセプトチュアルスキル	

### 連携企業

- うちわ工房しまの

## 授業概要

- デザインの授業において、越生町の伝統工芸品「越生うちわ」の製作体験を通じた地域学習を実施しました。事前に越生うちわの歴史や製作工程を紹介する動画を視聴し、基礎知識を習得。その後、「うちわ工房しまの」より職人を講師として招き、出張授業にて本格的なうちわ作りを体験しました。
- 生徒たちは、竹骨の構造や和紙の貼り方、柿渋を使った仕上げなど、伝統技法を学びながら実際に製作を行いました。デザイン部分は授業内で制作し、越生町や学校の魅力を表現する図案を考案。越生の自然や文化をモチーフとしたオリジナルうちわを完成させました。
- デザインと伝統技術、地域理解を融合させた本授業は、創造性と郷土愛の育成を目的とした実践的な学びの場となりました。

## 成果

- 越生町や学校の魅力をデザインに込めて表現することで、生徒の地域への関心と愛着が高まりました。完成したうちわは校内に展示され、地域文化を発信する機会となりました。
- 事前の動画学習と職人による指導を通じて伝統技術への理解が深まり、ものづくりへの敬意が育まれました。また、地域の文化を次世代へ伝えることの大切さに気付いた生徒も多く、文化継承への意識の芽生えが見られました。

# 越生うちわ作り (6/20) 普通科3年



# 埼玉県知事 ふれあい訪問 (2025年11月28日)

- 大野 埼玉県知事が「ふれあい訪問」として来校し、マイスター・ハイスクールの取組を視察
- 自動車科生徒が技能コンクールの内容と、ゼロカーボンに向けた環境実践の取組をプレゼンテーション
- 調理科生徒がチョコレートプロジェクトの概要と審査会での実演プレゼンを行い、試食を通じて成果を紹介

